JR東労組水戸

JR 東労組 水戸地方本部
発行責任者 村 田 祐 一
編　　集 情宣部担当

2025.11.19　No.17

御巣鷹山安全研修開催！

御巣鷹山　昇魂の碑

慰霊の園　慰霊塔

11月5日、水戸地本は御巣鷹山安全研修を開催しました。今年は御巣鷹山事故から40年であり、交通運輸産業で働く私たちが、過去の事故を学び、改めて労働組合から安全な職場をつくるために行いました。

1985年8月12日、日本航空123便（羽田空港発大阪伊丹空港行き）は伊豆半島西方沖を飛行中、衝撃音とともに操縦不能となり蛇行や旋回を繰り返すも繰り返しの操縦不能により御巣鷹の尾根に墜落しました。乗員乗客524名中、520名の尊い命が奪われ、奇跡的に4名が生存しました。

直接的な要因は、1978年4月に伊丹空港で起こした「尻もち事故」により後部圧力隔壁の損壊、事故からの疲労亀裂で隔壁の強度が低下、客室の与圧に耐えられなくなり、その後の操縦系統の破損により飛行性の低下と主操縦機能の喪失したとされます。背後要因では、ボーイング社・日本航空による製造や整備・人材育成のコスト削減、航空機の新システムへの未熟さや急激な路線拡大、経営計画や労務政策、人事が優先となり安全が二の次になる等がありました。

事故現場となった御巣鷹山を登り、多くの墓標を目の当たりし、改めて悲惨な事故であったことを実感しました。また群馬県上野村が設置した慰霊の園にも足を運び、事故の概要や当時の新聞記事、遺品等を見学し、命の大切さを学びました。

その後、総括会議を行い、労働組合が安全のチェック機能を果たしていくこと。そのためにも職場活動を強化していくことを確認しました。JR東労組水戸地本は過去の悲惨な事故から学び、安全第一の職場をつくり出すために活動していきます。

安全・健康・ゆとり・働きがいのある職場をつくり出そう！